

第3学年国語科 学びのデザイン

日 時 平成27年11月17日(火) 6校時

場 所 3年5組教室

学 級 3年5組(男子21名 女子18名 計39名)

指導者 伊藤 玲子

- 1 単元名 コンクールの審査員になったつもりで、説得力のある批評文を書こう 書く〔論証・説得〕
教材名 「観察・分析して論じよう～批評文～」(新しい国語3年 東京書籍)

2 本時の目標(4/5時間)

批評の対象について、説得力のある批評文を書くことができる。【書くことB(1)イ】

3 おもな授業の流れ

- (1) 本時の学習活動を確認する。

学習課題

批評の対象について、説得力のある批評文を書こう。

- (2) 本時の学習活動について見通しをもつ。

・学習の流れ、学習形態、時間配分

- (3) 「モデル文」で、批評文の「構成」と説得力のある書き方を確認する。

①書き手の意見

②選んだ理由(優れている点)

③選ばなかった理由(評価できない点) ④読み手への投げかけ

- (4) 批評文の「構成」に従って、批評文を書く。 【作業的な活動】

・原稿用紙2枚程度(800字)

- (5) 批評文について、4人グループで交流する。 【小グループ】【表現の交流と共有】

交流の観点: ①論理の展開

②資料の引用

③具体的な根拠(優れている点・課題点)

- (6) 本時の学習内容を振り返る。 【表現の交流と共有】

①個人でまとめる(学習評価シートに記入)

②全体で交流する。

- (7) 次時の学習を確認する。

・次時は批評文を交流し合うこと。

4 指導にあたって

- (1) 本時の批評の対象について試行錯誤を繰り返した。生徒が手がけた静物画や人物像、あるいは名画等どれがよいかである。生徒が「このポスターを論じたい」という意欲が最大限に発揮されるよう、身近にある、生徒会が訴えている「南中いじめ追放宣言」のポスターを教材として選んだ。日常目触れているものであり、「批評文」の構成を理解させ、自分が観察・分析したことを言葉にして表現する力を身に付けさせるのに適した教材であると考えたからである。

- (2) 本時の目標でもある「説得力のある批評文」を書かせるために、前時までに学習した批評文の「構成」や資料の引用等を再度確認したい。

- (3) 低位の生徒でも抵抗なく批評文を書き進められるよう、「モデル文」を活用し、批評文の「構成」や「説得力のある批評文の書き方」が把握できる手立てを講じたいと考える。

- (4) 交流の場面では、「交流の観点」を明示し、共感的な意見交換ができるよう助言したい。また、友人からの助言をメモするなど、他者から積極的に学ぶ姿勢がもてるような交流を目指したいと考える。